

全校集会 学校長の話（2025年9月1日）

- きょうから教育実習が始まります。実習の先生は、ある意味で皆さんにいちばん年の近い「先生」です。僕ら大人には相談しにくいことも、実習の先生になら話しやすい、ということがあるかもしれません。困ったとき、迷ったときは、遠慮なく声をかけてください。
- ここから、きょう皆さんに伝えたい話です。
今から102年前のきょう9月1日、日本で起こった出来事を知っている人はいますか？
1923年、今から102年前の9月1日、マグニチュード7.9の巨大地震が起きました。いわゆる関東大震災です。昼食の時間帯と重なり、各地で大規模な火災が起きました。死者・行方不明者は約10万5,000人。東京・横浜を中心に、生活の基盤が壊滅的な被害を受けました。
- そして、その後に起こったことも、忘れてはいけません。
「朝鮮人が井戸に毒を入れた」「暴動や放火をしている」といったデマ（根拠のない噂）が広まり、官憲や自警団によって多くの人命が奪われる殺傷事件が各地で発生しました。歴史の教訓として、流言（りゅうげん。根拠のないうわさ・真偽不明の情報が世の中に広まること）が差別や暴力に直結しうることを強く刻んでおく必要があります。
- しかし、時代は変わっても、災害時のデマは、亡靈のように現れます。
例えば熊本地震は2016年、つまり9年前に発生しましたが、その直後にSNS上で「井戸に毒」などの偽情報や差別的投稿が拡散した記録が残っています。
また、能登半島地震は2024年1月1日、いまから約1年8か月前ですが、このときも「外国人窃盗団が…」など真偽不明・虚偽の情報が広がり、現場の活動を妨げる事態が生じました。
- きょうは防災の日（9月1日）。
これから30年以内に発生すると予想される南海トラフ巨大地震の確率は「80%程度」とされています。だからこそ、物の備え（避難経路の確認・非常持出品）に加えて、心の備え——つまり情報を選ぶ力が欠かせません。
- では、皆で守るべき「3つの約束」を提案します。
 - 1. 確かめてから広げる。**
「ちょっと怖い」「拡散して助けたい」と感じたときほど、一呼吸おいて公式情報（気象庁・自治体・警察・消防）を確認する。未確認は拡散しない。
 - 2. 言葉で傷つけない。**
災害は誰のせいでもありません。出身・国籍・属性を理由にした決めつけやからかいは、過去の悲劇を繰り返す引き金になります。迷ったら「それは人を守る言葉か？」と自分に問い直す。
 - 3. 弱い立場の人を守る。**
流言が流れたら止める・注意する・相談する。ひとりで難しければ、先生や保護者、信頼できる大人に繋ぐ。見て見ぬふりをしないことが、いちばんの防災・減災につながります。
- 災害の教訓。「備える力」と「思いやる力」を育てていきましょう。以上で終わります。